

# 『丹波焼が出土した中世墓』

## 喜<sup>き</sup>多<sup>た</sup>中世墓群（丹波市）

丹波市市島町の喜多集落東側の丘陵斜面に位置する中世墓群です。昭和 58 年（1983）に近畿自動車道舞鶴線の建設に先立ち発掘調査が行われました。

斜面を段状に造り出した 3 箇所<sup>ほうきょういん</sup>の平坦面に総数 44 基の墓が設けられていました。円形の墓穴をもち、上に石材を積み上げたものが多く、その他に長方形の墓穴をもつものや蔵骨器を納めるもの、基壇をもつものなどがありました。墓の上に宝篋印<sup>とう</sup>塔や五輪塔が建てられたものもあつたようです。菊花双鳥鏡<sup>きつかそうちようきょう</sup>、短刀、土師器皿などの副葬品も出土しています。出土した土器からみると 14 世紀前半から後半にかけて次々と造墓されたと考えられます。

見つかった墓のうち、34 号墓は浅く掘りくぼめた穴に丹波焼の壺がすえられ、当初は石材でおおわれていたようです。壺の中に火葬骨が残っていたことから、蔵骨器として利用されていたことがわかります。

丹波焼の壺は還元色の強い青みがかった色調で、肩から上に緑色の自然釉が淡くかかっています。伝世品の丹波焼には赤みをもつ色調に、自然釉が流れ落ちるような作例が多いのに比べて、だいぶ印象が異なるものです。（学芸課長 池田征弘）



北側 2 箇所<sup>ほうきょういん</sup>の平坦面



丹波焼 壺